

稲荷社

祭神：稲荷神 宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）

創建：不明

稲荷神（いなりのかみ、いなりしん）は、日本における神の1つ。稲荷大明神（いなりだいみょうじん）、お稲荷様・お稲荷さんともいい、貴狐天皇（ダキニ天）、ミケツ（三狐・御食津）、野狐、狐、飯綱とも呼ばれる。稲荷系の神社では、玉藻の前（九尾の狐・殺生石）が祭られていることもある。

稲荷神を祀る神社を稲荷神社と呼ぶ。京都市伏見区にある伏見稲荷大社が日本各所にある神道上の稲荷神社の総本社となっている。朱い鳥居と、神使の白い狐がシンボルとなっている神社として、広く知られている。「稲荷」と表記するのが基本だが、「稲生」や「稲成」とする神社もある。稲荷神は、山城国稲荷山（伊奈利山）すなわち、現在の伏見稲荷大社に鎮座する神で、伏見稲荷大社から勧請されて全国の稲荷神社などで祀られる食物神・農業神・殖産興業神・商業神・屋敷神である。また神仏習合思想においては仏教における荼枳尼天と同一視され、豊川稲荷を代表とする仏教寺院でも祀られる。神仏分離の下、神道の稲荷神社では「古事記」、「日本書紀」などの日本神話に記載される宇迦之御魂神（倉稲魂命とも書く）、豊宇気毘売命（とようけびめ）、保食神（うけもち）、大宣都比売神（おおげつひめ）、若宇迦売神（わかうかめ）、御饌津神（みけつ）などの穀物・食物の神を主祭神とする。

総本宮である伏見稲荷大社では宇迦之御魂大神を主祭神として（五穀を司る宇迦之御魂神・倉稲魂命を参照）、佐田彦大神、大宮能売大神、田中大神、四大神とともに五柱の神として祀る。日本の神社の中で稲荷神社は、2970社（主祭神として）、32000社（境内社・合祀など全ての分祀社）を数える。

国玉神とは、国魂神、国霊神とも言い、日本人固有の神霊に関する信仰の一形態で、国土そのものの神霊をいう。



稲荷社 20150814



稲荷社 20150814



稲荷社 国玉天神 20150814



160404 稻荷社桜

